



# 東アジア仏教の 動向を映しだす鏡

柳 幹康

最終回となる今回は、これまでのまとめとして中国・朝鮮・日本における『宗鏡録』の受容状況を概観したいと思います。

延寿（九〇四―九七六）が生きた十世紀は唐宋変革の時代に当ります。唐宋変革とは唐から宋にかけて中国社会が一変したとする学説で、政治的には貴族政治から皇帝の独裁政治へ、経済的には物々交換が優勢な時代から貨幣経済の発展期へ、文化的には形式重視から自由な表現の時代へと移行します（谷川道雄「内藤湖南の思想次元」、『東アジア文化交渉研究』別冊三、二〇〇八年）。中国仏教も唐代以前は諸派が並存する多元的なものであったのに対し、宋代以降は禅宗と蓮宗を中心に諸宗が融合する一元化なものへと、その姿を一転させました。

唐と宋をつなぐ五代十国の時代にあつて延寿が編んだ『宗鏡録』は、このような中国仏教の唐宋変革を象徴するような書物でし

た。延寿は当時南方の呉越国ごえつこくにおいて諸教諸宗の統合を望む国王錢弘俶せんこうしゆく（在位九四八—九七八）の庇護のもと、禪宗が伝える宗おんしゆの心を核とし、唐代以前の多元的な仏教を一元的なものに再編しました。延寿によれば一見多種多様な教えは皆、例外なく禪宗所伝の宗おんしゆの心を指し示すものであり、坐禪や念仏など各種各様の実践もまたその心に集約されるもの——悟る前は心を看取するために（漸修ぜんしゆしゆ）、悟った後は心に基づき自ずと行うもの（頓修とんしゆしゆ）——でした。

延寿が没して宋の中国統一が成り皇帝の絶対的な権力が確立されると、かつて呉越国内において果たされていた王権による仏教の統合は、宋およびそれにつづく歴代王朝の全体的な課題となります。宋が中国を統一して約百三十年の後、『宗鏡録』は皇帝の勅許のもと仏教の正統説と公認され、仏教の一大聖典集たる大蔵経に収められます。その後も

『宗鏡録』は歴代の大蔵経に収められつづけ、諸宗融合の道をたどる中国仏教に「教禪一致」や「禪淨一致」など、その時々々に人々が求めた各種理論の基礎を提供していきました。やがて十八世紀の清代になると時の皇帝の雍よ正帝せい（在位一七二二—一七三五）により『宗鏡録』は「中国仏教史上最も優れた書物」、延寿は「中国仏教史上最高の導師」と絶讃されるに至ります。『宗鏡録』は王権による仏教の統合という中国歴代王朝全体の課題に応え続けたからこそ、かくも高い評価を得るに至ったのです。

『宗鏡録』は十世紀の成書後間もなく朝鮮半島にも伝わり、王権のもとに仏教諸派の統合を目指す時の国王光宗クァンジョン（在位九四九—九五）によって重視され、延寿の法を継いだ留学僧が王師や国師に任ぜられるなど、その法流は一世を風靡しました。ところが十四世紀以降朝鮮を治めた李氏朝鮮は朱子学を国教

とし仏教を排斥したため、仏教界そのものが衰退してしまいます。その後日本統治時代の紆余曲折を経て、二十世紀後半に朝鮮仏教の復興が進むなか、韓国の現代仏教を代表する禅僧性徹（一九二二—一九九三）が『宗鏡録』を用いて「正法」を提示します。いわば『宗鏡録』は朝鮮において、失われた伝統を「復興」する生きた宗教書として用いられたのです。

『宗鏡録』は十一世紀以前に日本へも伝わり、鎌倉・室町期の臨済宗の禅僧を中心に広く受容されました。日本臨済宗の祖とされる栄西（一一四一—一二一五）、時の権力者九条道家の外護のもと日本における臨済宗興隆の道を拓いた円爾（一二〇二—一二八〇）、そして室町幕府初代將軍の足利尊氏とその弟直義の帰依を受け、室町時代における禅の隆盛の基礎を築いた夢窓疎石（一二七五—一三五二）など、名だたる禅僧が皆『宗鏡録』を用いて禅を要とする総合的仏教観を宣揚

しています。ところが権力が分散し諸宗が各地に展開する戦国時代以降、諸宗統合の書『宗鏡録』に対する人々の関心は次第に薄れていきました。

このように『宗鏡録』の受容状況を見ると、王権のもと一元化の道を歩んだ中国の仏教、李氏朝鮮の排斥による長い衰退を経て復興した朝鮮の仏教、権力の分散にともない諸宗分立の道を辿った日本というように、それぞれ異なる道を歩んだ各地の仏教の様子が見えてきます。いわば『宗鏡録』は、東アジア仏教の動向を映しだす鏡のような書物だったのです。

柳幹康（やなぎ みきやす）

一九八一年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課程修了、博士（文学）。現在花園大学国際禅学研究所専任研究員・専任講師。著書に『永明延寿と『宗鏡録』の研究——一心による中国仏教の再編』（法藏館）。

## お願い

### 花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の官製はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。  
\*メ切りは毎月1日です。

### 花園へのご意見・感想など

本誌へのご意見・感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。

送り先

〒616-8035

京都市右京区花園妙心寺町64

妙心寺派宗務本所内編集室

俳壇／歌壇／花園 係

\*住所、氏名を必ずお書きください。  
\*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。  
(他誌投稿作品、転載は不可)  
\*なお投稿はお返しいたしません。

お知らせ

今月号をもちまして、SAYOKOさんの表紙イラスト、「身近に…禅」、「『論語』に親しむ」、「禅が伝える心の鏡」、「子どもゴコロ」、「笑顔になろうよ」が終了します。ご愛読いただきまして、ありがとうございました。また、4月号から新しい連載が始まりますので、ご期待ください。

**花園**  
hanazono

「いつもココロに花園を」  
あなたとわたしのポケットエッセイ集

【花園】第68巻 第3号(通巻第799号)  
平成30年3月1日発行(毎月1日発行)  
定価55円  
【発行人】栗原正雄  
【編集人】畠中寿浩  
【印刷人】喜田眞司  
【発行所】〒616-8035 京都市右京区花園  
妙心寺派宗務本所 教化センター  
振替／01060-9-1400番  
電話／075-463-3121番

表紙の絵

「ぼかぼか」



3月の縁側は、お日さまとジンチョウゲの香りでいっぱいです。

絵・SAYOKO

## お詫びと訂正

『花園』2月号「花園俳壇」30ページ下段にお名前が誤りがありました。  
謹んでお詫び申し上げ、下記の通り訂正させていただきます。

誤) 我孫子市 佐藤 郁 → 正) 我孫子市 佐藤 都

編集室

妙心寺派ホームページ…………… <http://www.myoshinji.or.jp>  
臨黄ネットワーク(臨済宗・黄檗宗全般)…… <http://rinnou.net>

『花園』誌一冊送りの年間購読料は、1,560円(送料込)です。  
お申し込み・お問い合わせは頒布課まで。

\*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。